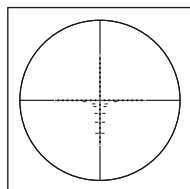


SURE HIT 41650 TACTICAL SSTP

取扱説明書

倍率 : 4~16倍
 レンズ径 : 50mm
 チューブ径 : 30mm
 レティクル : Mildot-SSTP
 M.O.A. : 1クリック=1/4M.O.A.
 アイリリーフ : 4x=125.5mm/16x=92.5mm
 全長 : 348mm
 重量 : 580g
 作動幅 : UP-R/45M.O.A.
 インフポイント : 1M.O.A.以内
 F.O.V. : 4x/7.1m、16x/1.92m
 付属品 : フリップオープンキャップ、サンシェード



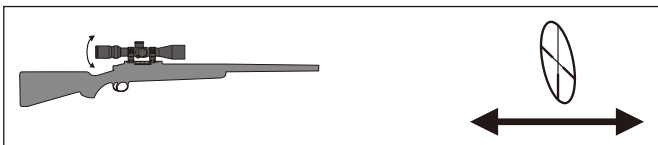
銃にマウントする前に

●焦点合わせ-デイオプター調整

視力は各個人で異なりますので、接眼部にある「デイオプター」を使って調整しておく必要があります。まず、サイドフォーカスノブを無限遠(∞)に合わせます。そして壁や空などの形のない明るいところを見て下さい。その状態でレティクルがクッキリとしていなければ、デイオプターを回して鮮明に見えるように調整してください。



遠くを見た状態でレティクルがクッキリ見えるように、デイオプターを回して調整します。



スコープは、レンズを覗いたときに空中にレティクルが投影されるようにできています。デイオプターは、その投影される距離を調節するためのものです。

●調節ノブのロックと解除方法

SURE HIT 41650のウインテージ/エレベーション調節ノブは、回転しないようにロックする機能を持っています。



ロックされている状態……ノブを押し込むとロックされ、回転できなくなります。



ロックを解除した状態……ノブを引き出すとロックが解除され、回転させることができます。



注意

調節ノブを無理に回さないでください。ノブをいっぱいまで回した状態から、さらに無理に回すことは損傷の原因になります。

●レティクルをセンターに合わせる

SURE HIT 41650は、出荷時にレティクルがおおむね中心に来るように調節してありますが、一度別の銃で使用したことがある場合などは、マウント前に一度レティクルをセンターに戻しておくことをおすすめします。



1.エレベーション/ウインテージ調節ノブを、一度片方向(写真では時計回り)に、何回転させたか数を数えながら、動かなくなるまで回す。



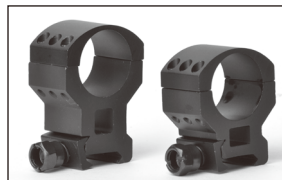
2.反対方向(写真では反時計回りに、何回転させたか数を数えながら、動かなくなるまで回す。



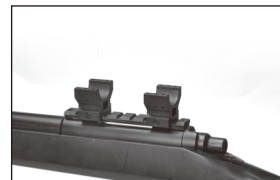
3.最初と同じ方向(写真では時計回りに、「2」で調べた回転数の半分だけ回す。

SURE HITの取り付け

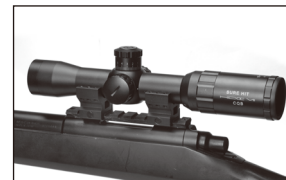
スコープが十分にその能力を発揮するためには、銃に正しくマウントされていることが非常に重要になります。適切な高さ・位置・向きに、十分に強固にマウントしてください。



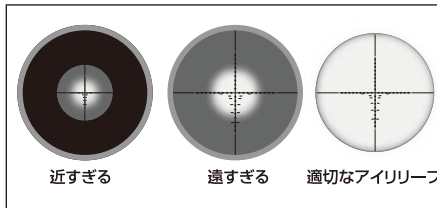
銃に取り付けられているマウントベースと、SURE HIT 41650に適した、十分に品質の高いマウントリングを使用してください。



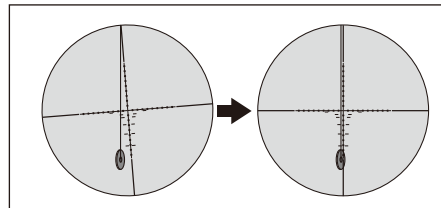
まず、マウントリングの下側のみを、銃のマウントベースに取り付けます。この段階では仮固定なので、マウントリングの固定スクロウは軽く締めるだけでOKです。



スコープをマウントリングに載せ、前後位置などが適切になっているかどうかを確認します。実際に銃を構えてみて、適切なアイリリーフが取れるかどうかを確認します。



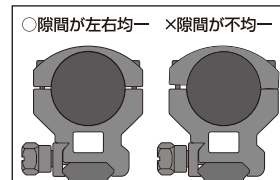
アイリリーフとは……スコープは目と接眼レンズの間に、ある程度の距離を置いた状態で使用します。その距離をアイリリーフと呼びます。近すぎて遠すぎて、正しい照準ができなくなります。構えた時に適切なアイリリーフが取れるようにスコープを取り付けてください。



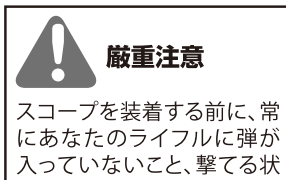
レティクルの水平・垂直を合わせます。銃を平らなところに置いた状態で垂直なもの(コインを吊り下げた糸など)をスコープで見て、糸とレティクルの縦の線が揃うようにする方法があります。



マウントベースにマウントリングを固定しているスクロウを十分に締めてから、マウントリングの上側を取り付け、各部のスクロウを締め付けます。スクロウは一箇所だけいきなり全部締め付けるのではなく、全体が均等に締まっていくように注意してください。



マウントリングが正しく取り付けられた場合、左図のように上下マウントリングの間には左右均等な隙間が空くように作られています。もし左図のように左右の隙間が不均一になっているようでしたら、スクロウを緩めてから左右均等になるように締め直してください。

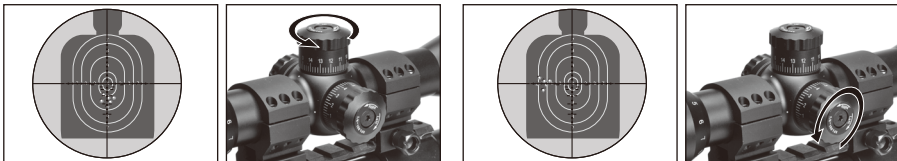


厳重注意

スコープを装着する前に、常にあなたのライフルに弾が入っていないこと、撃てる状態になっていないこと、安全装置がかかっていることを確認して下さい。これは装着の都度必ず実行して下さい。

ゼロイン

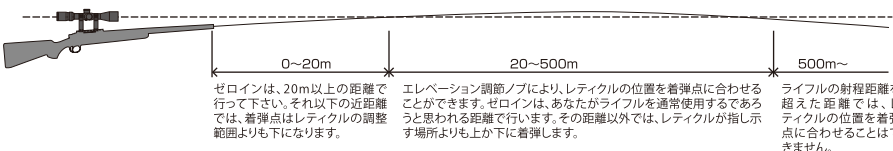
ある特定の距離でターゲットの中心を狙って撃ったときに、中心に弾着が集まるように調節することをその距離におけるゼロインと呼びます。ゼロインをする時には、1発だけではなく同じ場所を狙って数発を撃って、そのまとまりを見て調節することが重要です。



狙った場所より下に当たる場合…エレベーション調節ノブを「UP」の方向に回します。上に当たる場合はその逆です。

狙った場所より左に当たる場合…ウインテージ調節ノブを「Right」の方向に回します。右に当たる場合はその逆です。

光は真っ直ぐ進みますが、発射した弾はおおむね放物線を描いて飛びます。レティクルの中心に弾が当たるのは最大で2つの距離だけで、それ以外の距離では弾はレティクルの中心より上か下に当たります。

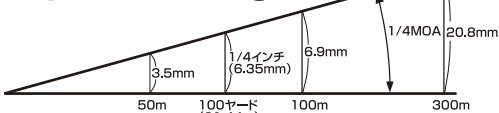


ゼロインは、20m以上の距離で行って下さい。それ以下の近距離では、着弾点はレティクルの調整範囲よりも下になります。

エレベーション調節ノブにより、レティクルの位置を着弾点に合わせる事ができます。ゼロインは、あなたがライフルを通常使用するであろうと思われる距離で行います。その距離以外では、レティクルが指し示す場所よりも上か下に着弾します。

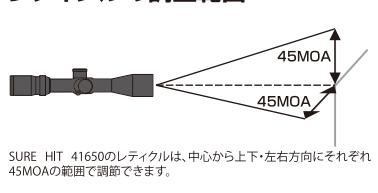
ライフルの射程距離を超えた距離では、レティクルの位置を着弾点に合わせることはできません。

M.O.A. (Minute of Angle)



本製品のレティクルは1クリックで1/4MOAの移動量になるように設計されています。MOA (Minute of Angle) とは100ヤードで1インチとなる角度の単位のことです。1/4MOAをメートルに直すと「91.44mで6.9mm」の移動量ということになります。50mでは3.5mm、300mでは20.8mmとなります。

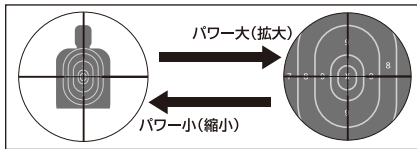
レティクルの調整範囲



パワーセクター(ズーム)の使い方



パワーセクターを回転させることで、ターゲットの拡大率を変更できます。



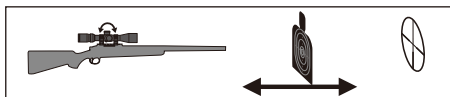
大きな数字ではターゲットは大きく、小さな数字では小さく見えます。どこにいるかわからないターゲットを探すときは小さな数字、より精密に狙いたいときは大きな数字に合わせるとよいでしょう。

サイドフォーカスノブの使い方

ライフルスコープは、レンズを覗いた時にレティクルが遠方に投影されて見えるように設計されています。サイドフォーカスノブは、ターゲットまでの距離とレティクルが投影される距離を一致させるためのものです。



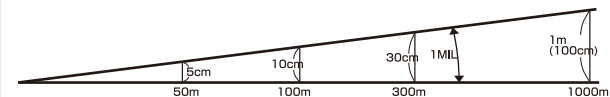
ターゲットまでの距離に合わせてスコープ左側面にあるサイドフォーカスノブを調節します。フォーカスを合わせることができる距離は最短で10mからになります。



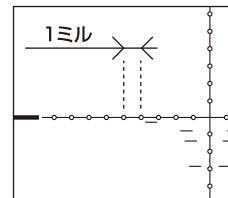
サイドフォーカスノブの調節により、ターゲットとレティクルを同一フォーカスに合わせることができます。適切に調節すれば、レンズを覗く位置によるレティクルのスレ(パララックス)もゼロになります。

ミルドットレティクル

レティクルの中心部周辺に描かれている、等間隔に並んだ丸い点を「ミルドット」と呼びます。ターゲットを最も拡大した時(パワーセクターを最も大きな数字に合わせた時)に、ドットとドットの間隔は1ミル(1000m先の1m)になります。



ミル(MIL)もMOAと同じ角度の単位で、一般的に「1000mで1m」として扱われます。100mなら10cm、10mなら1cmとなります。大きさが分かっているターゲットをミルドットレティクルで見た時に、ドットいくつかの大きさに見えるかによってターゲットまでの距離を計算することができます。



本製品では、パワーセクターを最大に合わせた時にドット間が1ミルになります。

メンテナンス

ホコリや汚れはまずエアダスターやブロワーで吹き飛ばし、落ちない汚れは柔らかい布などで拭き取ってください。

使用しない時は付属のレンズキャップを装着してください。

可動部分は恒久的な潤滑がなされていますので、油を差したりしないでください。

トラブルシューティング

●狙った場所に当たらない

調節ノブの範囲に収まらない…マウントベースがエアガンに対して真っ直ぐ取り付けられているか確認してください。

撃つたびに当たる場所がズレる…マウントベースとエアガンがしっかりとガタなく固定されているか確認してください。